

7月のことば

教え① ～繰り返すことの大切さ、「技」「理解」

『歴史のひかり』という本があった。我^{わが}少年時代、夏休み前に、父が私に買ってくれた本である。五話ほどの歴史の事件を、英雄達がどうゆう信念に基づいて行動したのかが書かれていた。

一話一話の内容は、子どもの心に「なるほど」と納得させるものだったが、中でも“川中島の戦い”の項は、敵に塩を援助し、正々堂々と戦おうとする上杉謙信の「義」の行いが美しい挿絵^{さしえ}とともに語られており、我^{わが}心に染みわたるものであった。

幾度も幾度もこの本を読んだ。それでここに描かれている英雄達の教えは、学生時代～青年期の私にとって行動の判断基準となり、これを社会に応用することができた。

* * *

スマートホンの時代“上杉謙信”という情報は操作一つで大量に出てきます。しかし、彼を理解できたとは言えません。東大生に数学の勉強の方法を尋ねると、良い問題集を選んで何回も繰り返し解いたといいます。つまり完全に理解できると初めてみる問題でも「これはあの問題とあの問題の組み合わせだな。」と気付くようになるのです。これが応用です。

繰り返し完全に習得したもののことを「技」といいます。その技は、武道もバスケットボールのシュートでも2万回繰り返すと一応の体得ができると言われます。

そして、技が完全に崩れないようになると「形^{かた}」や「型^{かた}」になります。日本剣道形や伝統物造りの型等がそうで、この教えが日本の強さでした。しかし今はどうでしょうか？

* * *

読書による“人としての生き方や考え方”も良い本を繰り返し読んで、技となり形として、実生活に応用できてこそ、意味を成します。

『歴史のひかり』は、繰り返し読んでいたために白いカバー表紙が手垢で若干黄色くなり、いつも見ていた謙信と信玄の一騎打ちの挿絵のページは糸がゆるくなり、パタンと開いてしまう程の状態でした。

少年・青年期の私は、心が沈んだ時にこの本を静かに開けるだけで勇気がみなぎってきたのです。しかし、昭和57年の大和川水害で、我が実家も被害に遭い、それ以来『歴史のひかり』は、どこへいったのか分かりません。

夏になると思い出す、我^{わが}懐かしい記憶です。

